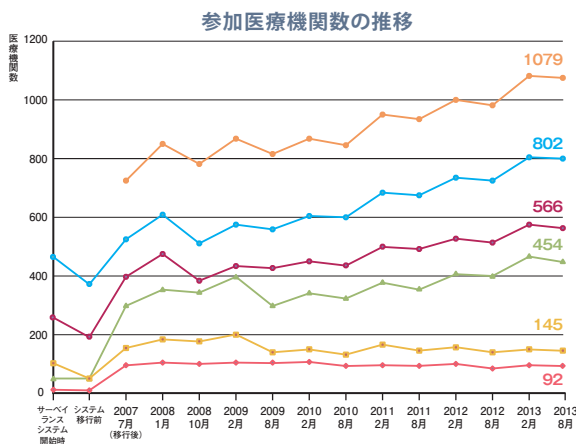


200床未満の医療機関も参加募集中です!

厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS: ジャニス)は、医療機関ごとに「薬剤耐性菌の分離率」や「院内感染の発症率」に関するデータを収集し、我が国の院内感染の概況を把握し、医療現場への院内感染対策に有用な情報の提供を行うことを目的としており、下記の5部門に分かれています。

JANISの5部門

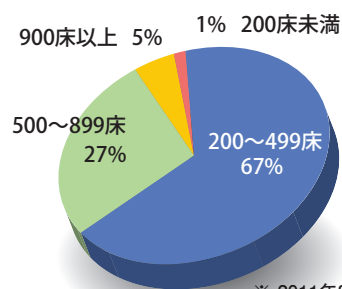


徐々に参加医療機関が増えていきます

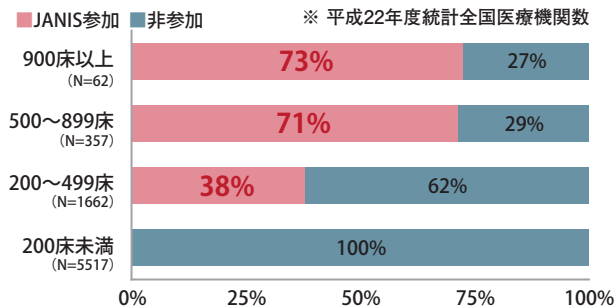
500床以上の病院の約7割が参加

参加医療機関中、200～499床の中規模病院が67%を占めていて、全国的には同規模の病院の約4割が参加していることとなります。一方、500床以上の大規模病院は、全国的には7割を超える参加率となっています。

参加医療機関の病床数別割合 (N=940)



病床数別JANIS参加・非参加医療機関の割合



参加資格の幅を広げる予定であり、200床未満の医療機関からの参加も積極的に呼びかけています。

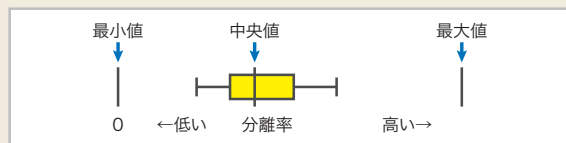
JANISでは、全参加医療機関のデータを集計・解析し、還元しています。

参加医療機関はサーベイランスデータを提出すると、定期的に「還元情報」を受け取ります。この「還元情報」では、自施設のデータを全参加医療機関と比較することができます(図1)。全参加医療機関の集計データである「公開情報」は、JANISのホームページ上 (<http://www.nih-janis.jp/>) に掲載しており、一般の方もご覧いただけます(図2)

例えばこんな情報

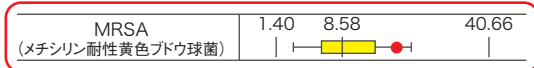
図1 検査部門還元情報: 特定の耐性菌の分離率

全参加医療機関における分離率や発症率の中央値や最大値、最小値などを「箱ひげ図」を用いて示しています。



自施設の分離率が「箱ひげ図」内に赤い点(●)で示すことにより、自施設が全参加医療機関の中でどのような位置にあるかを確認できます。

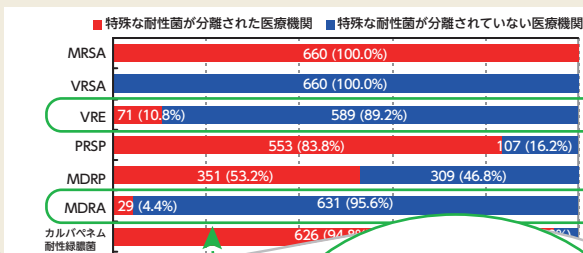
全医療機関の分離率(2011年)と自施設当月の分離率の比較



例えばこんな情報

図2 検査部門公開情報: 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

特定の耐性菌が分離された医療機関の割合



この医療機関のMRSAは、赤い点が中央値より右にあるため、全参加医療機関の中で分離率が高いということがわかります。

MRSAが全ての医療機関から分離されているのに対し、VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)やMDRA(多剤耐性アシネトバクター)は一部でしか分離されていません。